



兵庫県は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

令和5年度

兵庫県内市町 市町財政の状況



1. 経常収支比率の状況

- 【資料1】 令和5年度兵庫県内各市町の経常収支比率（単年度）の状況<地図> 1
- 【資料2】 経常収支比率（単年度）の対前年度比較 2

2. 実質公債費比率の状況

- 【資料3】 令和5年度兵庫県内各市町の実質公債費比率の状況<地図> 3
- 【資料4】 実質公債費比率の対前年度比較 4

3. 将来負担比率の状況

- 【資料5】 令和5年度兵庫県内各市町の将来負担比率の状況<地図> 5
- 【資料6】 将来負担比率の対前年度比較 6

4. 財政調整基金残高の状況

- 【資料7】 令和5年度末兵庫県内各市町の財政調整基金残高の状況<地図> 7
- 【資料8】 財政調整基金残高の対前年度比較 8

5. 税徴収率の状況

- 【資料9】 令和5年度兵庫県内各市町の徴収率（個人住民税）の状況<地図> 9
- 【資料10】 徴収率（個人住民税）の対前年度比較 10
- 【資料11】 令和5年度兵庫県内各市町の徴収率（固定資産税）の状況<地図> 11
- 【資料12】 徴収率（固定資産税）の対前年度比較 12
- 【資料13】 令和5年度兵庫県内各市町の特別徴収実施率の状況<地図> 13
- 【資料14】 特別徴収実施率の対前年度比較 14

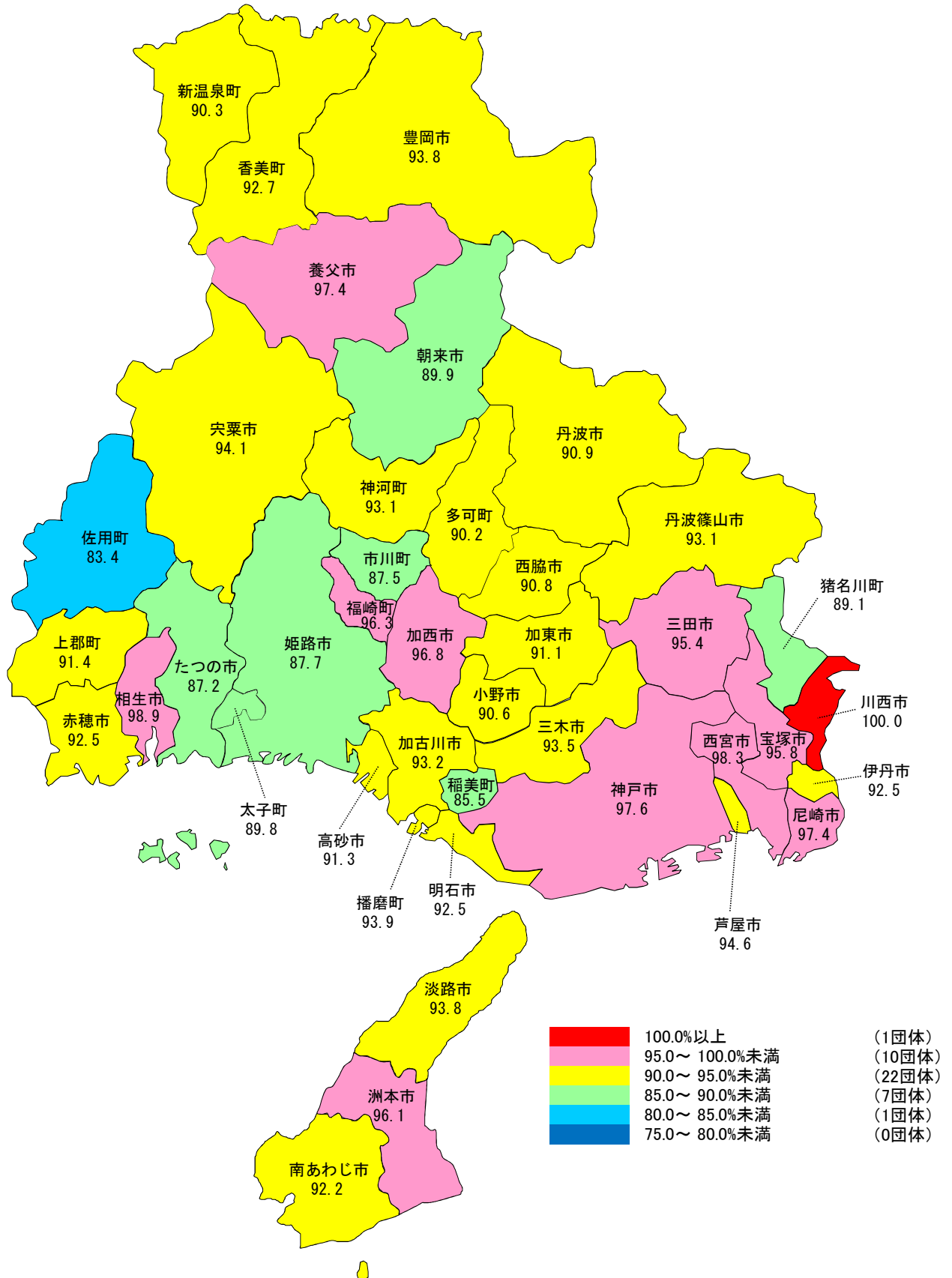
※ 参考

- 【参考資料①】 令和5年度兵庫県内各市町のラスパイレス指数の状況<地図> 15
- 【参考資料②】 ラスパイレス指数の対前年度比較 16

※今回発表は9月末時点の数値であり、今後、議会審査等により変更の可能性あり

令和5年度兵庫県内各市町の経常収支比率(単年度)の状況

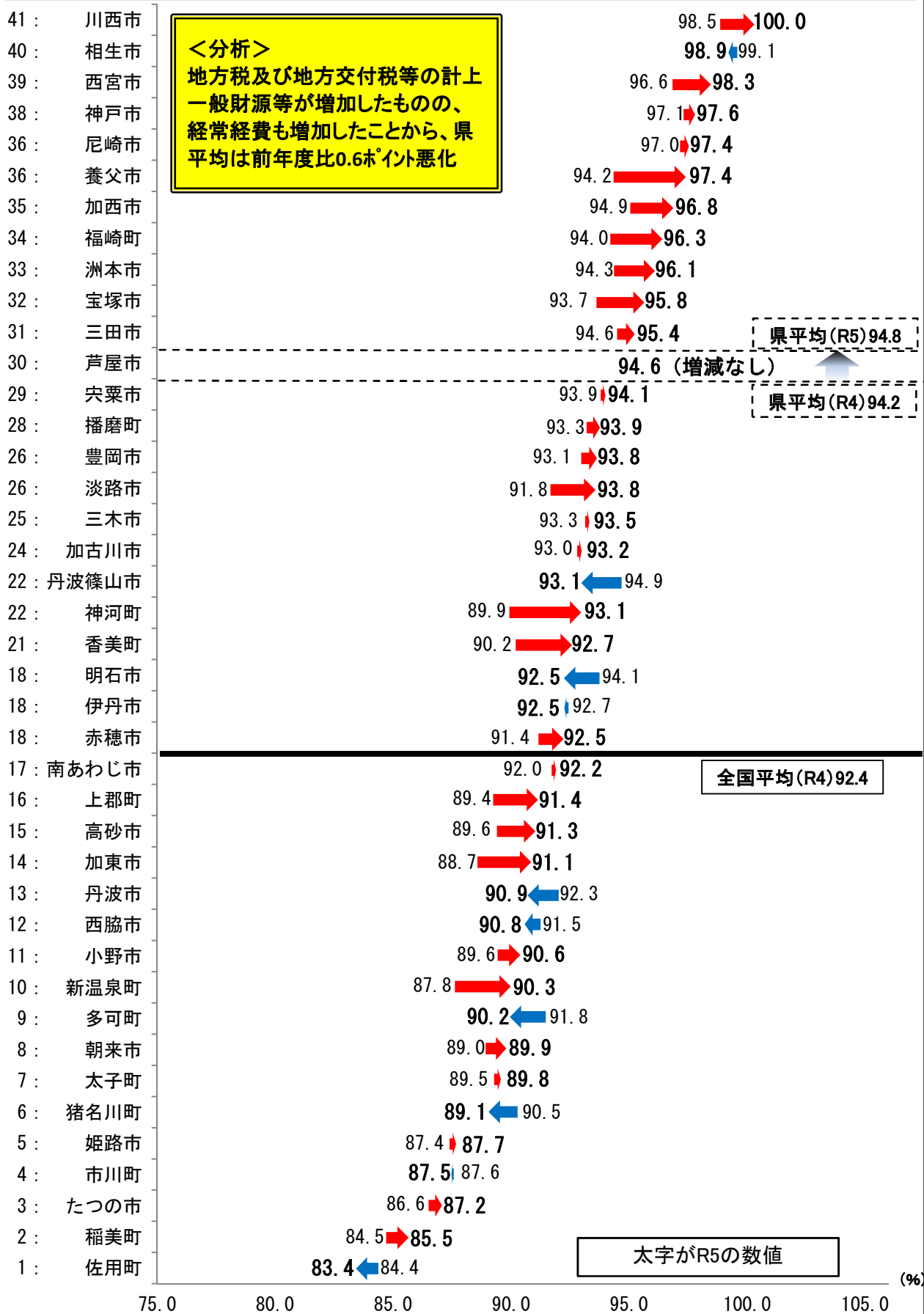
○経常収支比率の県内市町平均は、94.8%(R4県平均94.2%)
○経常収支比率が最も高い団体は、市では川西市(100.0%)、町では福崎町(96.3%)
○経常収支比率が最も低い団体は、市ではたつの市(87.2%)、町では佐用町(83.4%)



経常収支比率の対前年度比較

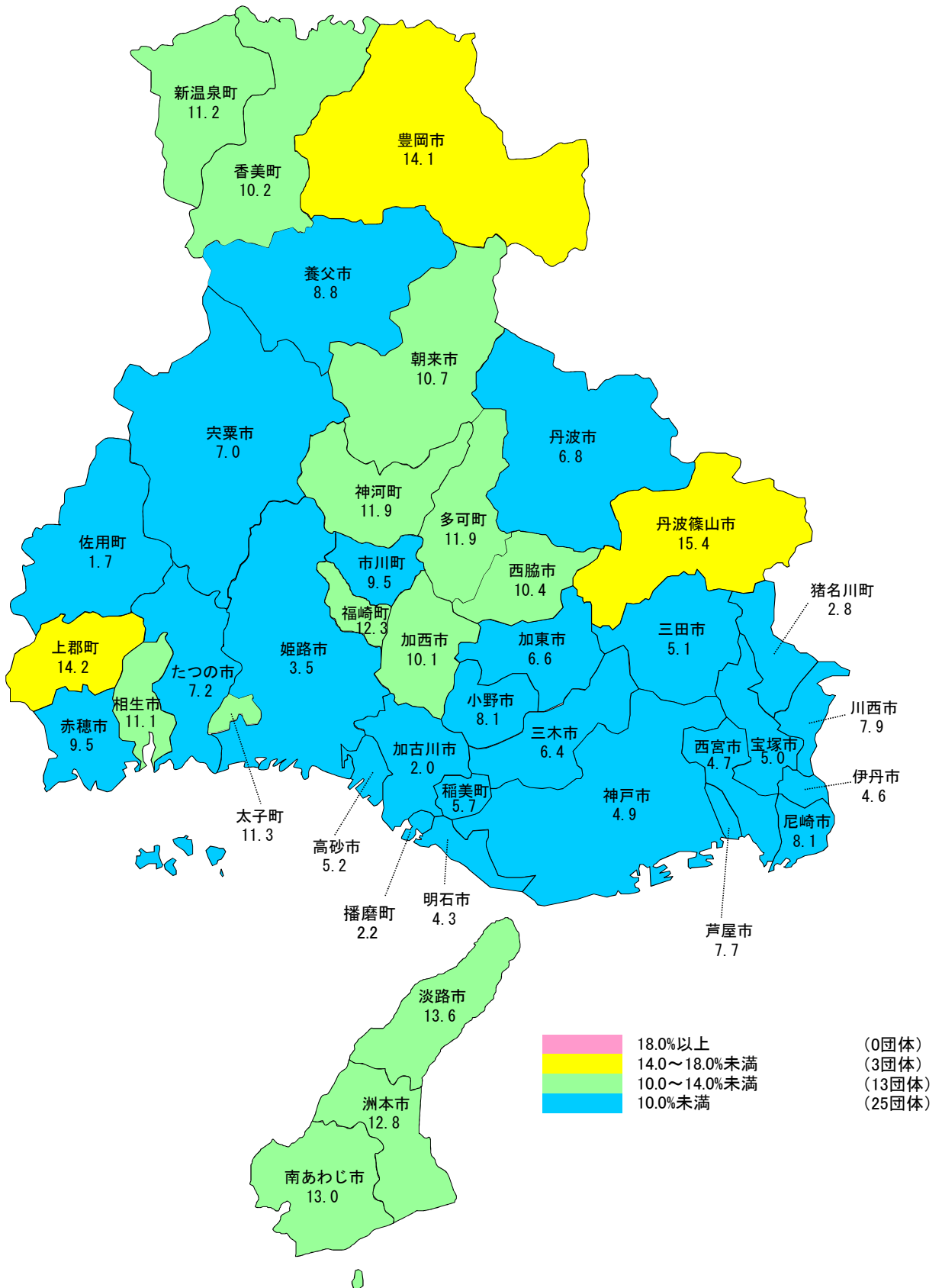
- 前年度から比率が増加したのは30団体、比率が減少したのは10団体、1団体が増減なし。
- 最も減少したのは、市では丹波篠山市(▲1.8)、町では多可町(▲1.6)。
- 最も増加したのは、市では養父市(+3.2)、町では神河町(+3.2)。

<分析>
 地方税及び地方交付税等の計上一般財源等が増加したものの、経常経費も増加したことから、県平均は前年度比0.6ポイント悪化



令和5年度兵庫県内各市町の実質公債費比率の状況

- 実質公債費比率の県内市町平均は、6.1%(R4県平均 6.0%)
- 実質公債費比率が25%以上及び18%以上の団体は、ない。
- 実質公債費比率が最も高い団体は、市では丹波篠山市(15.4%)、町では上郡町(14.2%)
- 実質公債費比率が最も低い団体は、市では加古川市(2.0%)、町では佐用町(1.7%)

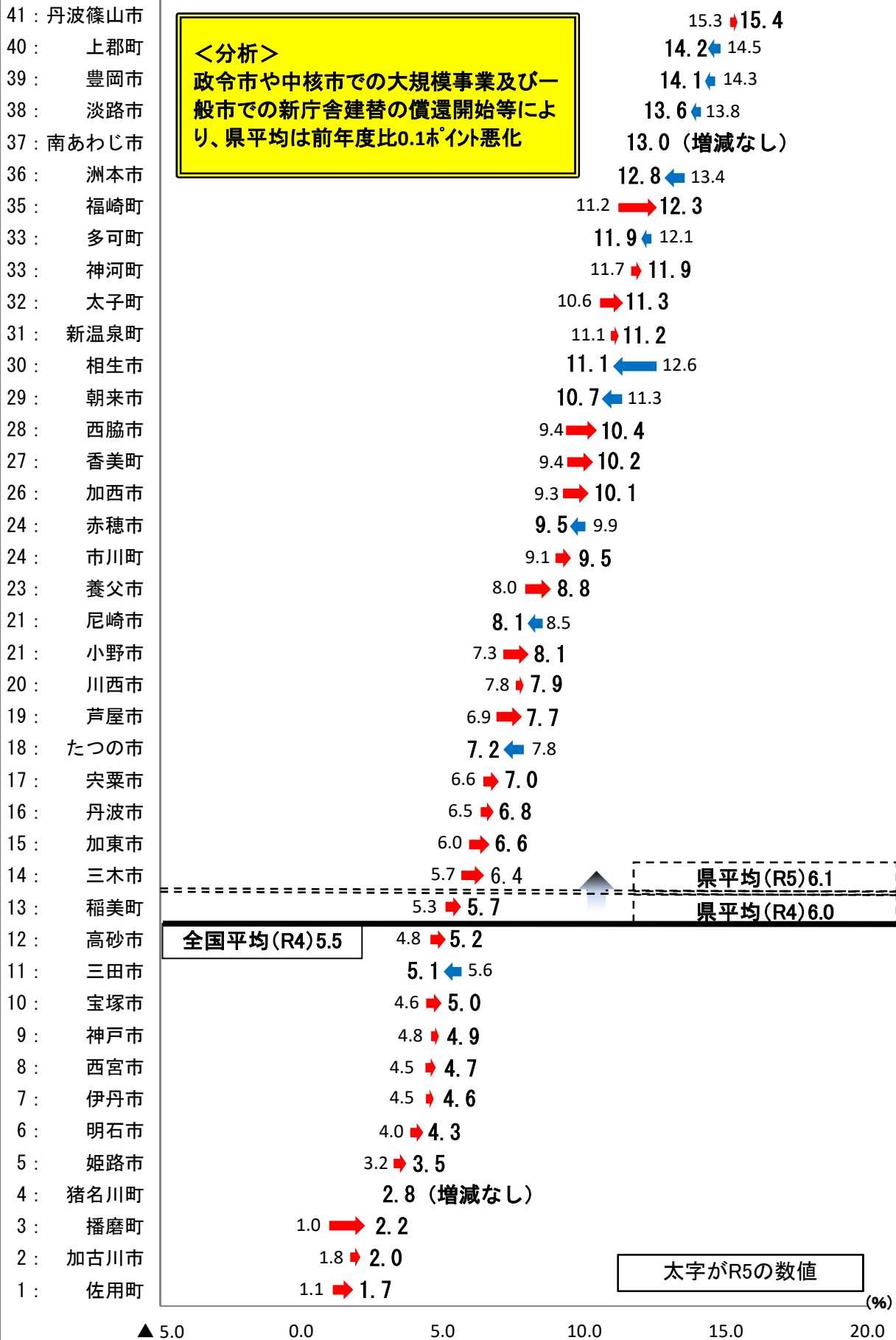


※ 実質公債費比率25%以上35%未満の地方公共団体 : 早期健全化団体となり、財政健全化計画を策定し、その内容及び実施状況に応じて起債を許可
 ※ 実質公債費比率が18%以上25%未満の地方公共団体 : 公債費負担適正化計画の内容及び実施状況に応じ、起債を許可。

実質公債費比率の対前年度比較

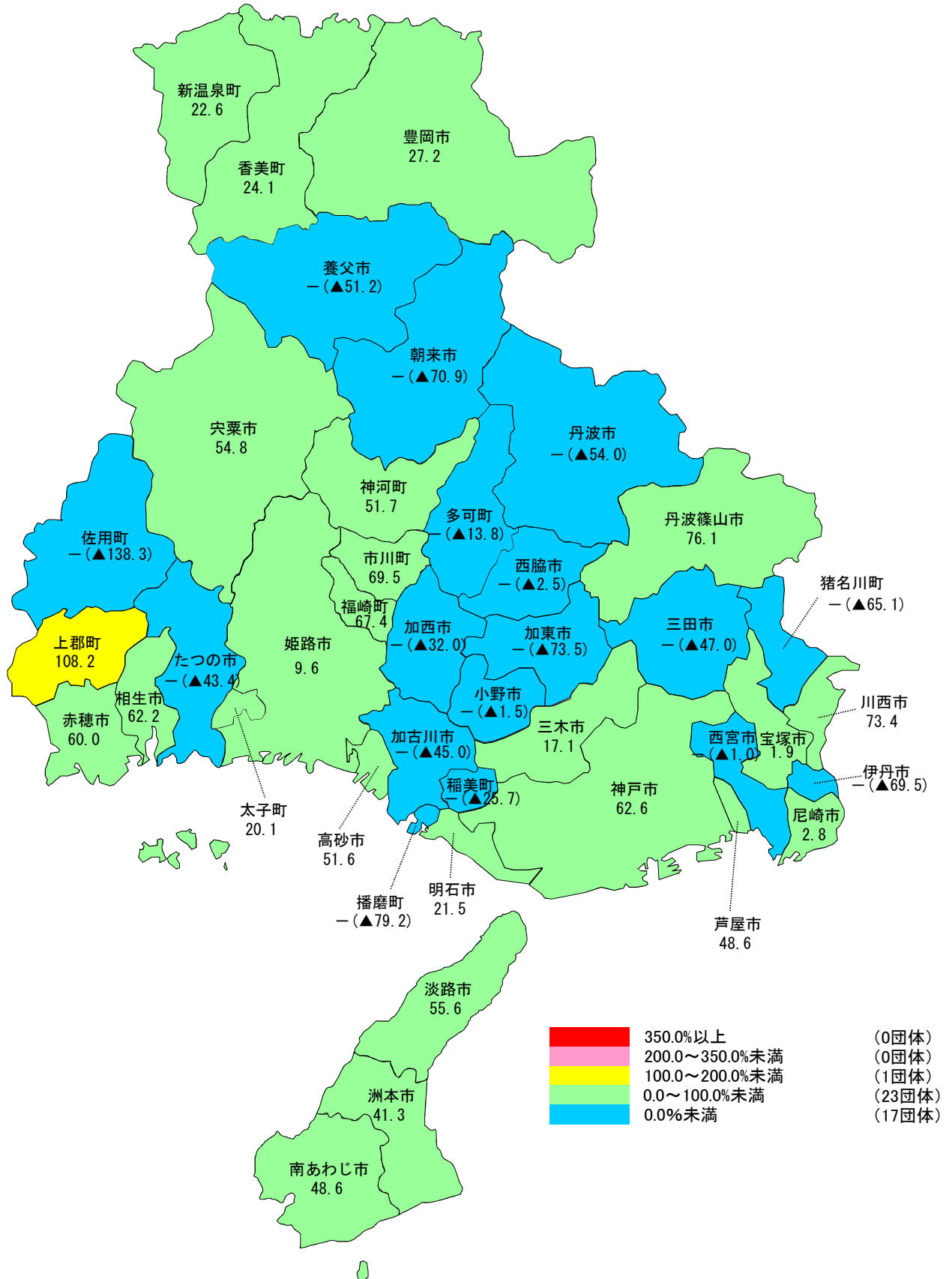
- 前年度から比率が増加したのは28団体、比率が減少したのは11団体、2団体が増減なし。
- 最も増加したのは、市では西脇市(+1.0)、町では播磨町(+1.2)。
- 最も減少したのは、市では相生市(▲1.5)、町では上郡町(▲0.3)。

<分析>
 政令市や中核市での大規模事業及び一般市での新庁舎建替の償還開始等により、県平均は前年度比0.1ポイント悪化



令和5年度兵庫県内各市町の将来負担比率の状況

- 将来負担比率の県内市町平均は、21.5% (R4県平均25.9%)
- 将来負担比率が350%以上(早期健全化団体)の団体は、ない。
- 将来負担比率が最も高い団体は、市では丹波篠山市(76.1%)、町では上郡町(108.2%)
- 将来負担比率が最も低い団体は、市では宝塚市(1.9%)、町では太子町(20.1%)

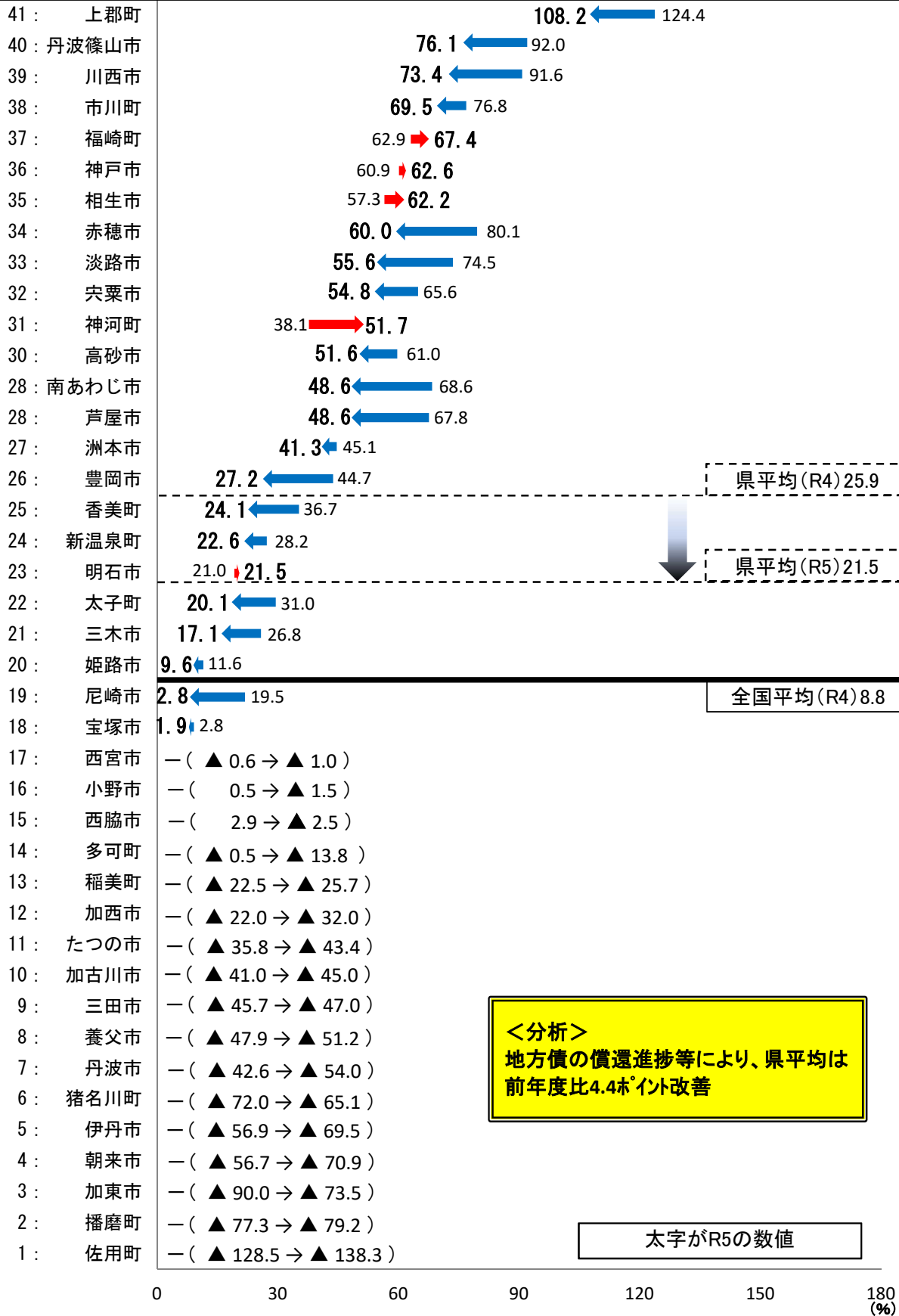


※ 将来負担比率が350%以上(政令市においては400%以上)の地方公共団体は、早期健全化団体となり、財政健全化計画を定めなければならない。
 ※ 将来負担比率について、公債費充当可能財源等が将来負担額を上回るため比率が算定されない団体は、「-」で表示。(括弧書きで、公債費充当可能財源等の超過率を参考表示。)

将来負担比率の対前年度比較

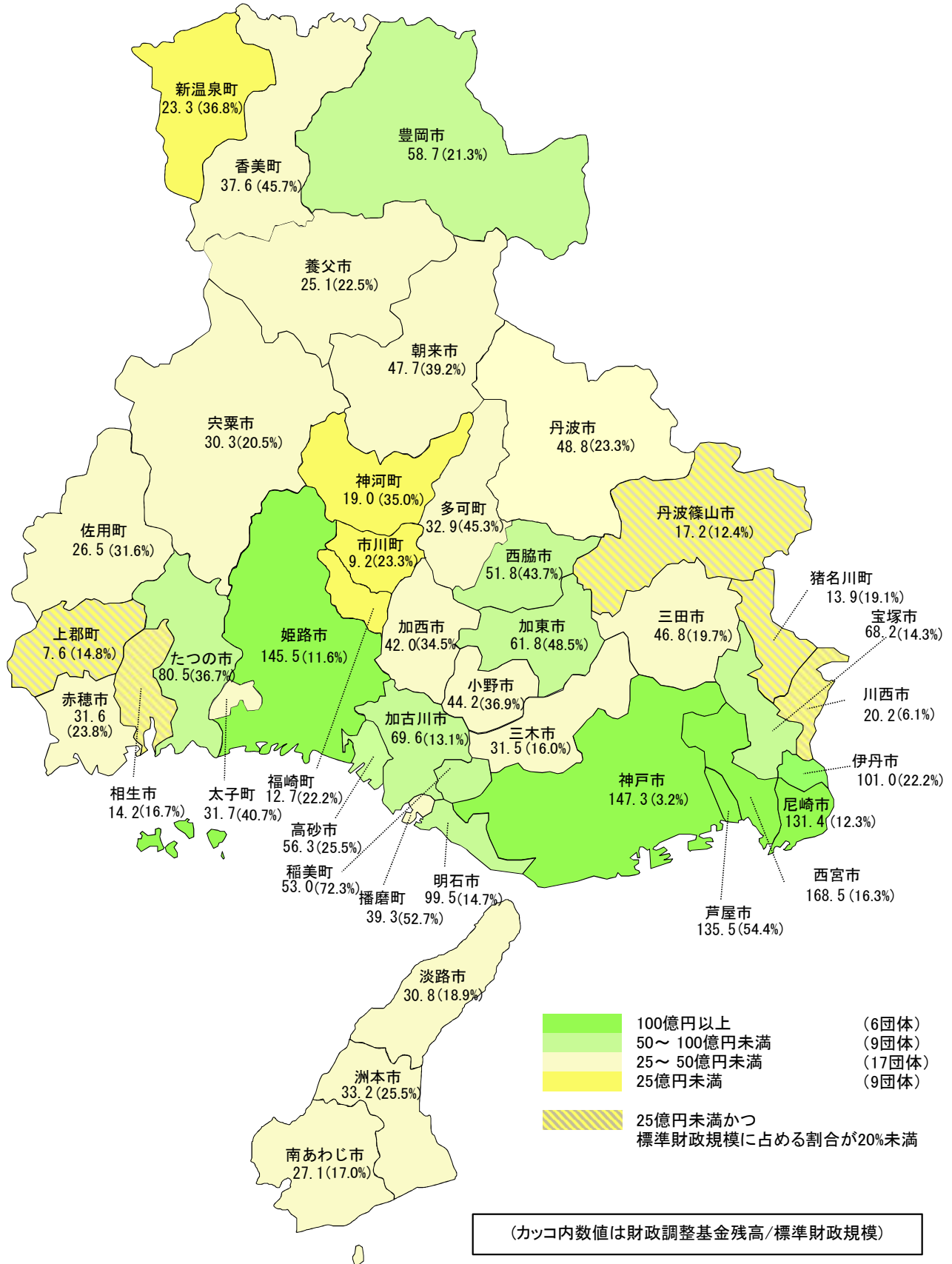
【資料6】

- 前年度から比率が増加したのは7団体、比率が減少したのは34団体。
- 最も増加したのは、市では相生市(+4.9)、町では神河町(+13.6)。
- 最も減少したのは、市では赤穂市(▲20.1)、町では上郡町(▲16.2)。



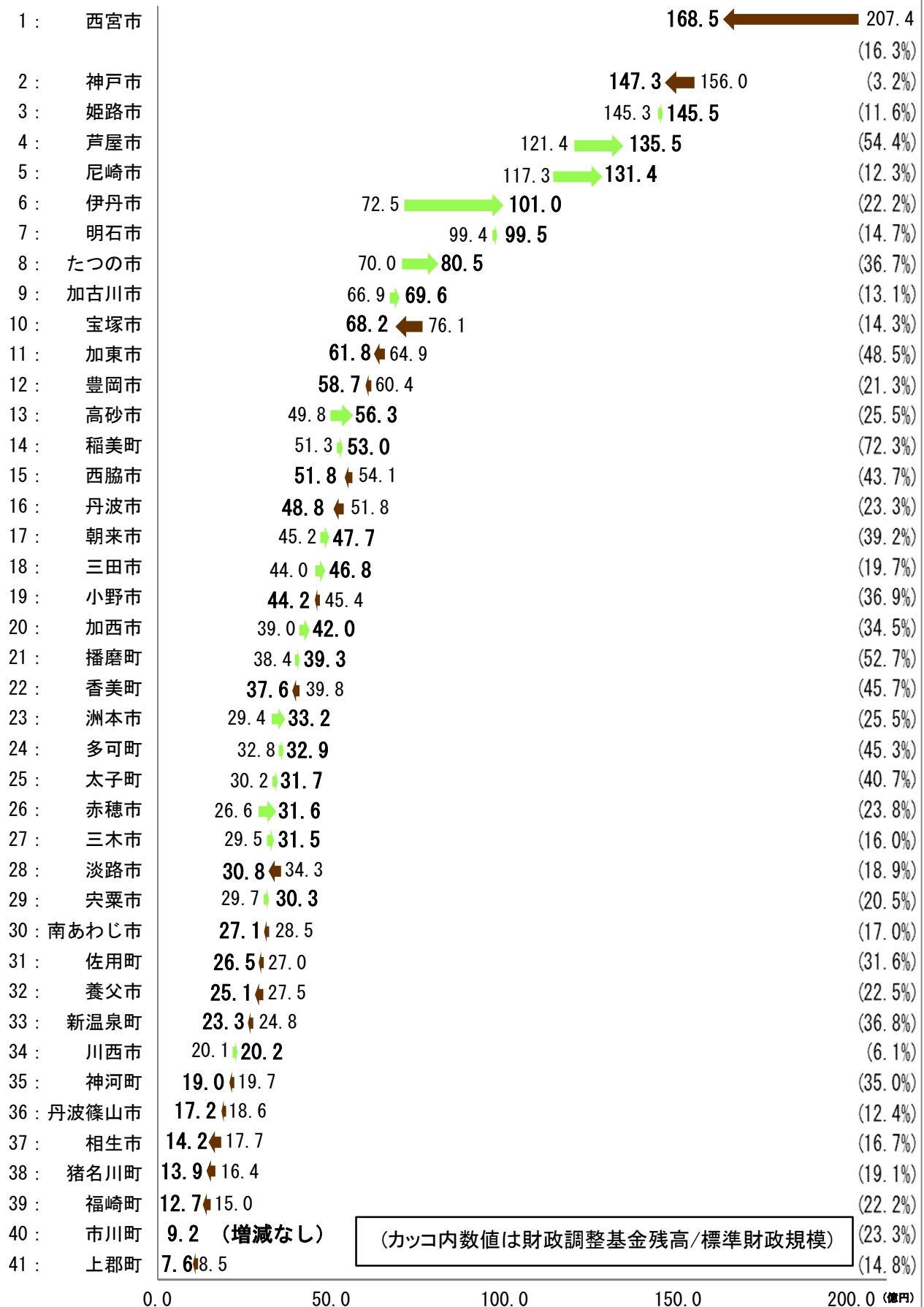
令和5年度末兵庫県内各市町の財政調整基金残高の状況

○財政調整基金残高の県内市町合計は、2,173.0億円
 ○財政調整基金残高が最も多い団体は、市では西宮市(168.5億円)、町では稲美町(53.0億円)。
 ○財政調整基金残高が最も少ない団体は、市では相生市(14.2億円)、町では上郡町(7.6億円)。



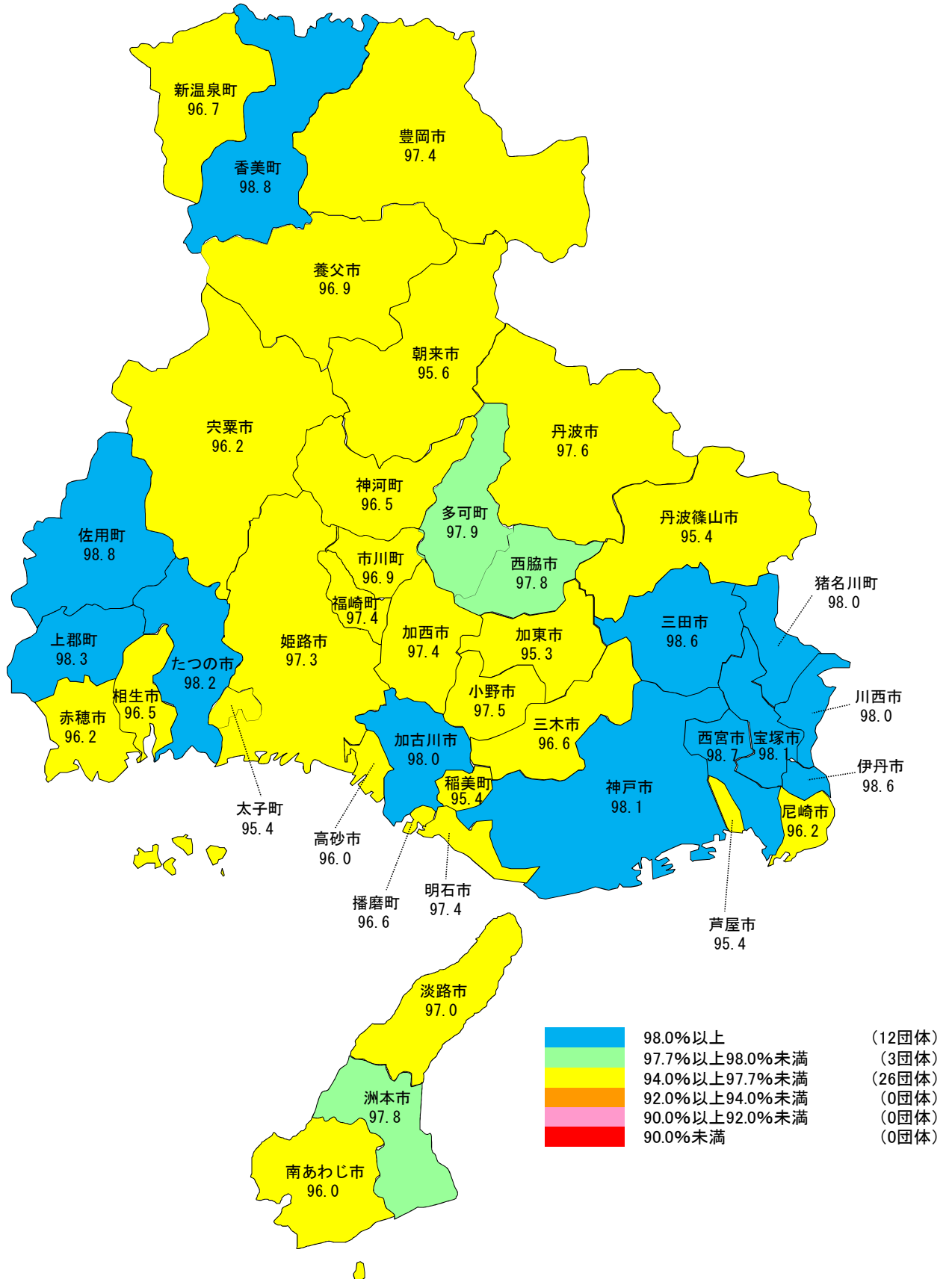
財政調整基金残高の対前年度比較

- 前年度から残高が増加したのは20団体、残高が減少したのは20団体、1団体が増減なし。
 ■最も増加したのは、市では伊丹市(+28.5億円)、町では稲美町(+1.7億円)。
 ■最も減少したのは、市では西宮市(▲38.9億円)、町では猪名川町(▲2.5億円)。



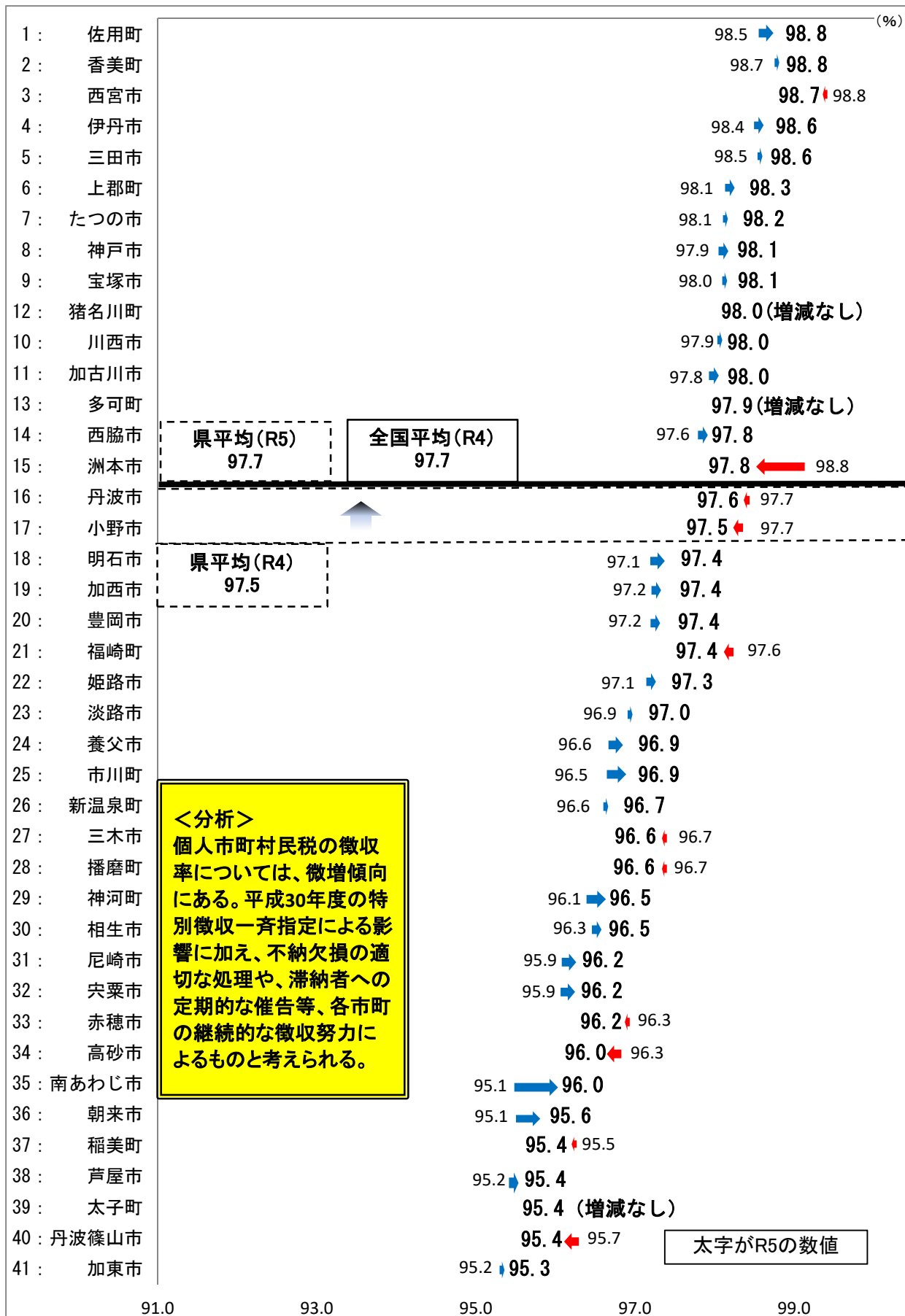
令和5年度兵庫県内各市町の徴収率(個人市町村民税)の状況

- 徴収率の県平均は、97.7% (R4県平均97.5%)
- 徴収率が最も高い団体は、市では西宮市(98.7%)、町では佐用町(98.8%)
- 徴収率が最も低い団体は、市では加東市(95.3%)、町では太子町(95.4%)



徴収率(個人市町村民税)の対前年度比較

■前年度から比率が増加したのは27団体。
 ■最も増加したのは南あわじ市(0.9%)、最も減少したのは洲本市(▲1%)

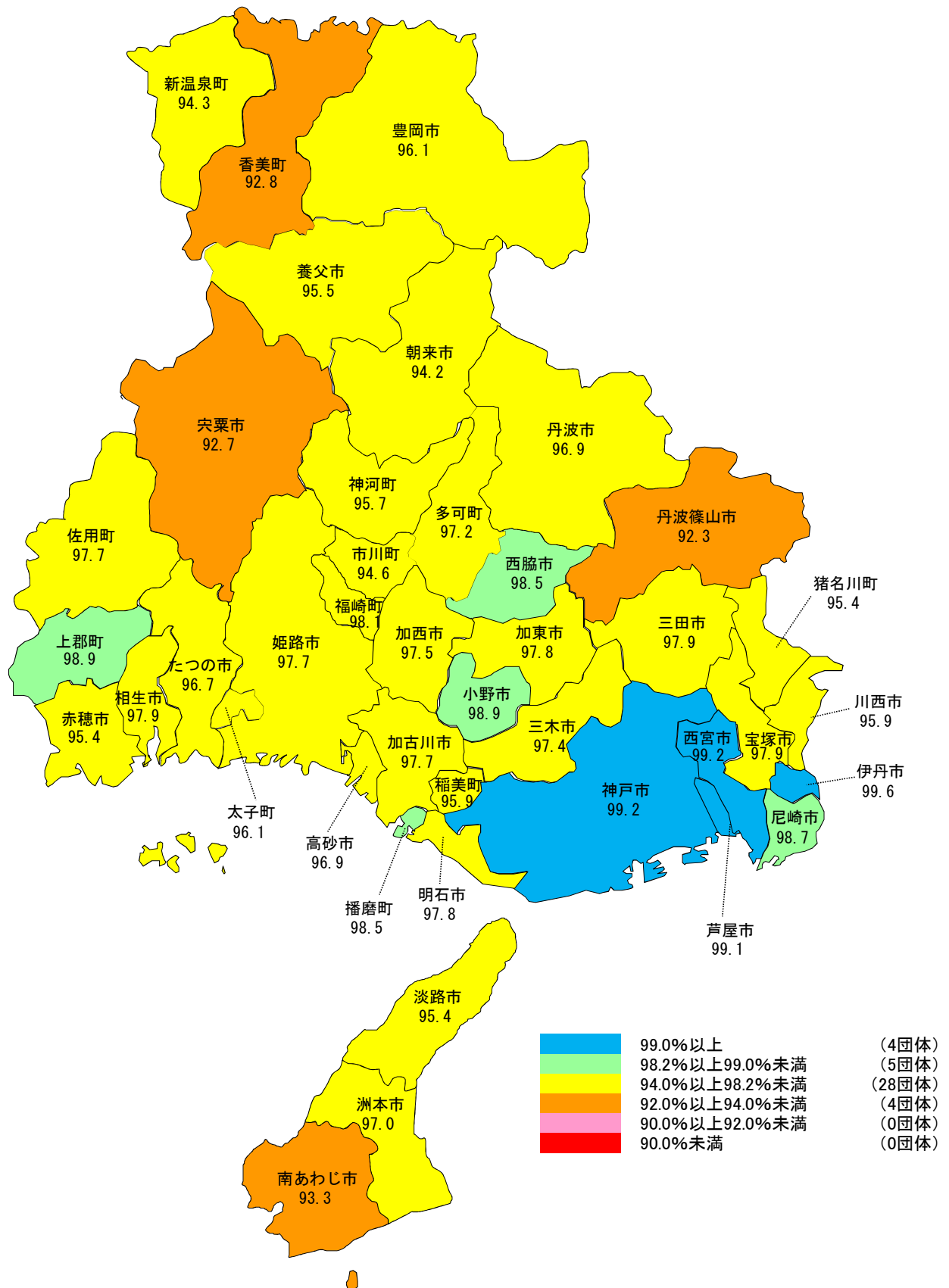


<分析>
 個人市町村民税の徴収率については、微増傾向にある。平成30年度の特別徴収一斉指定による影響に加え、不納欠損の適切な処理や、滞納者への定期的な催告等、各市町の継続的な徴収努力によるものと考えられる。

太字がR5の数値

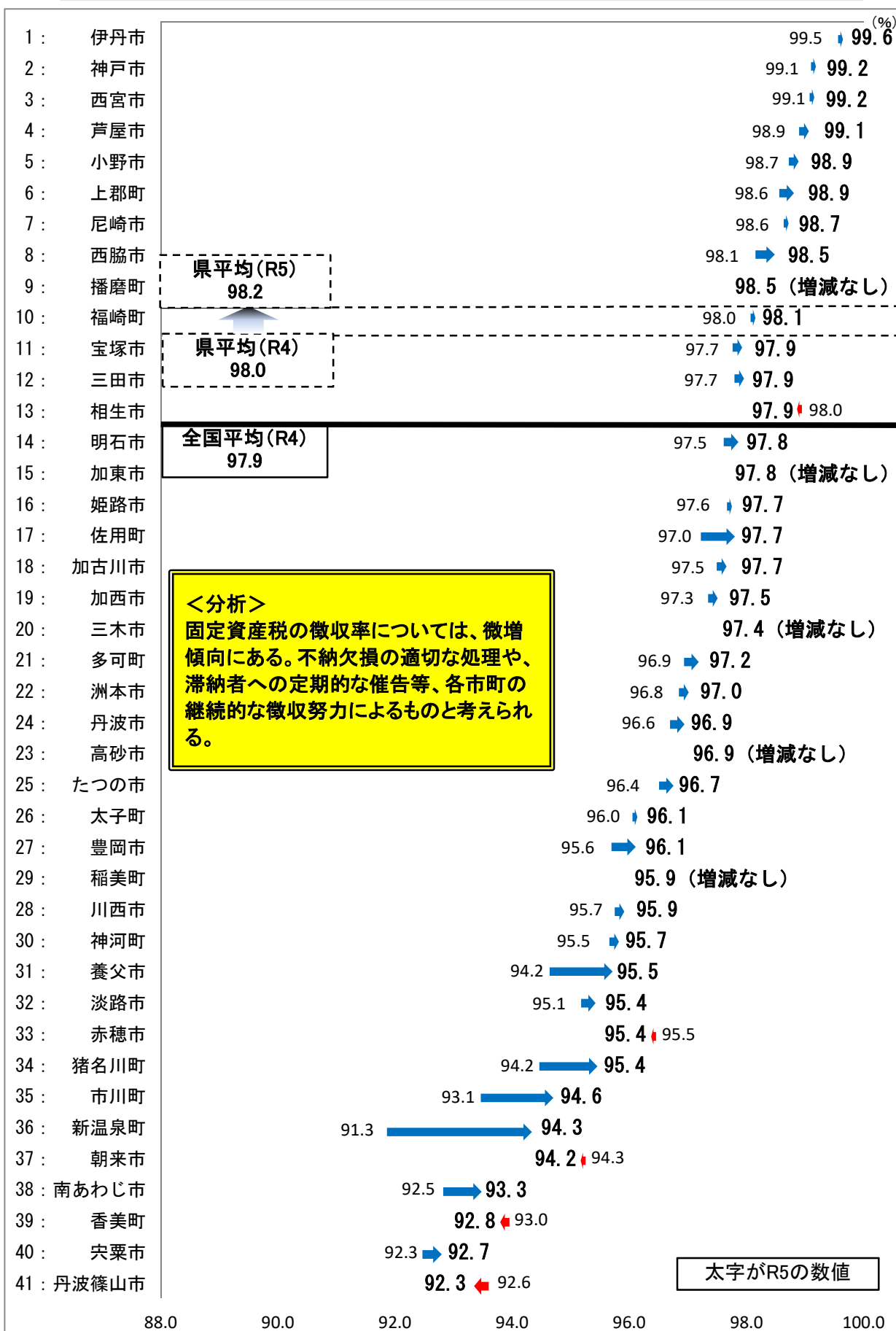
令和5年度兵庫県内各市町の徴収率(固定資産税)の状況

- 徴収率の県平均は、98.2%(R4県平均98.0%)
- 徴収率が最も高い団体は、市では伊丹市(99.6%)、町では上郡町(98.9%)
- 徴収率が最も低い団体は、市では丹波篠山市(92.3%)、町では香美町(92.8%)



徴収率(固定資産税)の対前年度比較

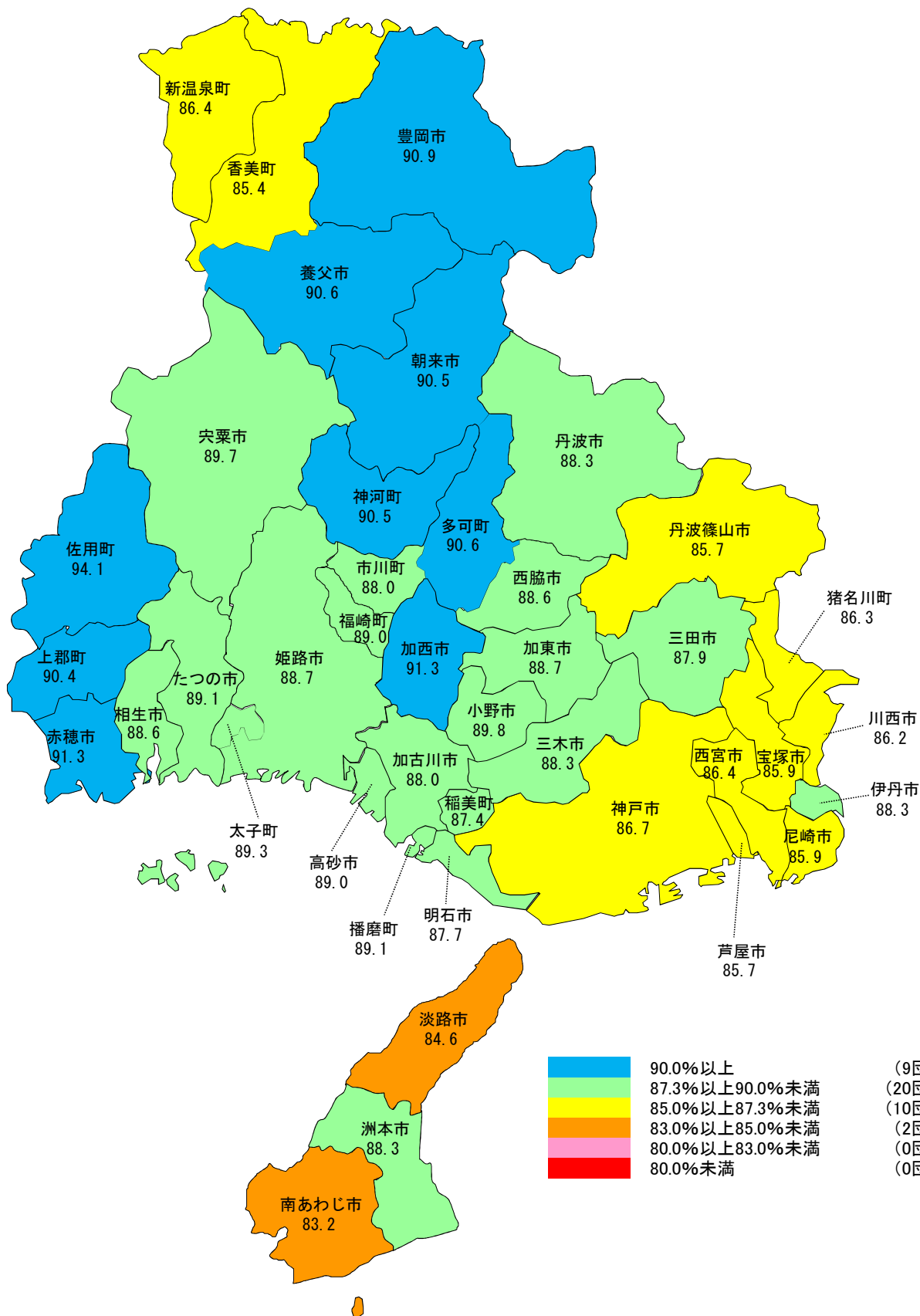
■前年度から比率が増加したのは31団体。
 ■最も増加したのは新温泉町(3.0%)、最も減少したのは丹波篠山市(▲0.3%)



<分析>
 固定資産税の徴収率については、微増傾向にある。不納欠損の適切な処理や、滞納者への定期的な催告等、各市町の継続的な徴収努力によるものと考えられる。

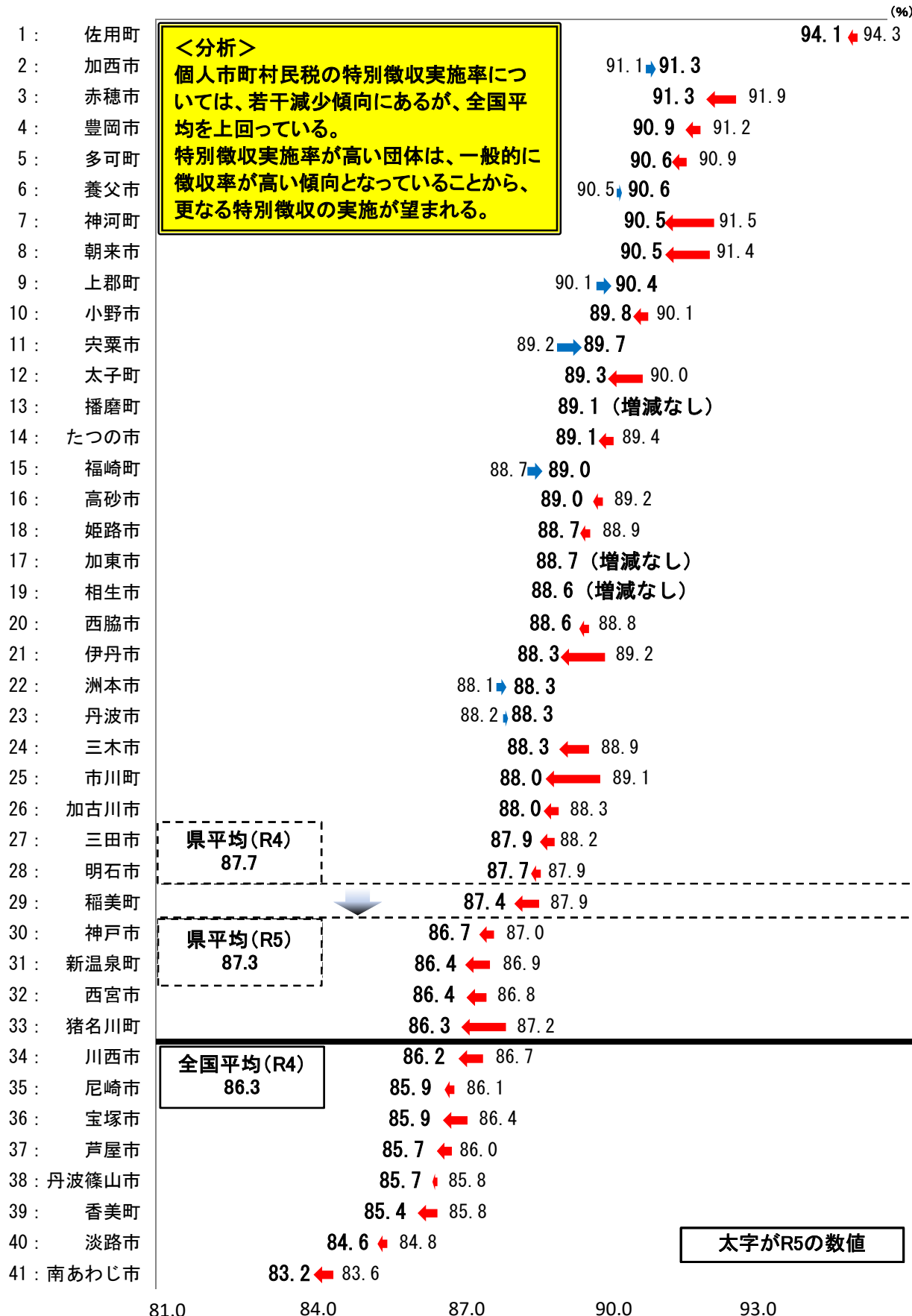
令和5年度兵庫県内各市町の特別徴収実施率の状況

- 特別徴収率の県平均は、87.3%(R4県平均87.7%)
- 特別徴収率が最も高い団体は、市では加西市(91.3%)、町では佐用町(94.1%)
- 特別徴収率が最も低い団体は、市では南あわじ市(83.2%)、町では香美町(85.4%)



特別徴収実施率の対前年度比較

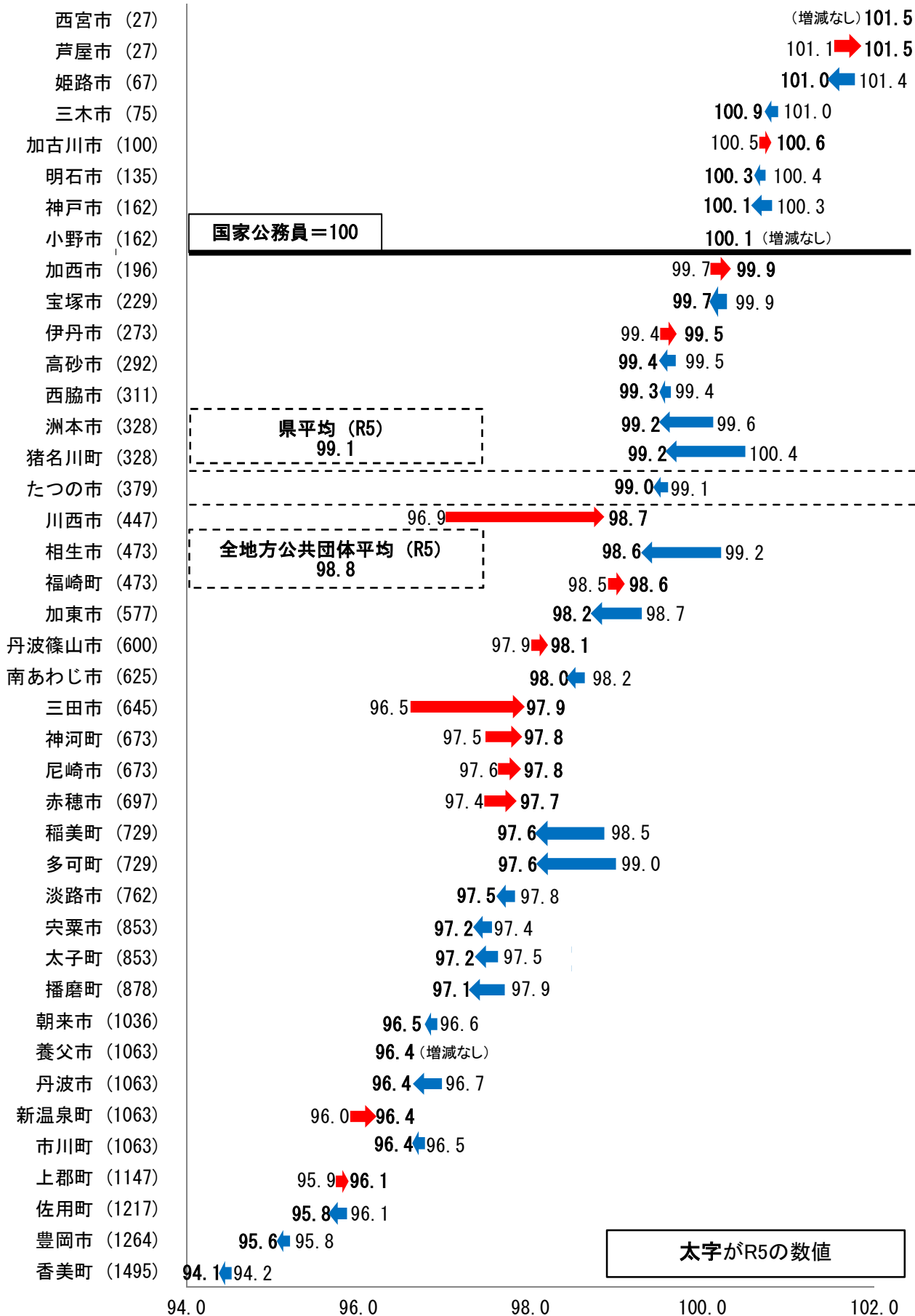
■前年度から比率が増加したのは7団体。
 ■最も増加したのは宍粟市(0.5%)、最も減少したのは市川町(▲1.1%)



※特別徴収実施率＝給与所得者のうちの特別徴収で納付している人数／給与所得者の納税義務者数

令和5年ラスパイルス指数の対前年比較

- 前年から指数が減少したのは25団体、増加したのは13団体
- 100以上の団体は、前年比△1団体の8団体
- 最も増加したのは川西市(+1.8)





Hyogo
Prefecture

令和6年9月

兵庫県総務部市町振興課